

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三一五
TEL 027・2555・3434
FAX 027・2555・3435
<http://www.neues-asahi.jp>

先日、ノイエスでは「夏の蚤の市・ふる本市」を開催、多くの愛書家の方々のご来廊をいただきました。家に蔵書がたくさんある方でも新たな本との出会いをもとめて何度も足を運んで下さった方、手放してしまった本を探しにみえた方、群馬テレビの放映を見て初めてノイエスに来て下さった方……。一言二言の会話の中に何か心がホッとするような時間が流れていました。毎朝、本を綺麗に拭いて棚に補充していく単純な作業をしながら色々な想いが甦ってきました。

講演会で来橋され、その後の酒席で作家が話した「講演会では話さなかつたこと」は、本の中にも書かれていなかったことがあつたり、遠くが存在だった作家を身近に感じられました。そして、さらにその内面を心のどこかで感じられたように活字を追うようになりました。若い頃には感じるこの出来なかつたことです。

遠くに旅立たれた作家の本の扉を開くと生きている言葉が行間から聞こえてくるように感じることもあります。それは作家の「力」なのだと思いが持てるようになりました。

今回の「冬の蚤の市・ふる本市」は、二月五日(火)～二十一日(日)の予定ですので温かいノイエスでお待ちしています。

いよいよ秋本番です。ノイエスのホームページもリニューアルし、さらに充実した情報を提供していますので、皆様お誘い合わせの上ご来廊下さい。お待ちしております。

(武藤)

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

第3回 松尾昭典作陶展

〈企画〉

会期 十月三日(土)～十一日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2



掌中の艶

千葉 功 漆藝展

〈企画〉

会期 十月十七日(土)～二十五日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

梁瀬江里子ニットサークル作品展

会期 十月二十六日(月)午後一時～午後五時

十月二十七日(火)午前十時～午後五時

十月二十八日(水)午前十時～午後五時

十月二十九日(木)午前十時～午後四時

会場 ノイエス朝日

全日ニットカフェ開催

連絡先 027・252・1739 (梁瀬)

第9回 キルトハウス ヒサ

パッチワークキルト教室作品展

会期 十一月五日(木)～八日(日)

午前十時～午後六時(最終日は四時まで)

会場 ノイエス朝日

来年の新春企画は、四ツ井健(友禅染)×藍田愛郎(江戸小紋)「染・彩々展」で始まります。

友禅や江戸小紋の歴史を紐解くと江戸時代に始まります。友禅は、江戸時代の京の扇絵師・宮崎友禅齋に由来し、当時の扇絵の柄を小袖の文様に染色したのが友禅のはじまりだそう。また、江戸小紋は、江戸時代の諸大名が着用した袴の模様づけが発祥と。その後、模様の豪華さを張り合うようになり幕府から規制がかかり、遠くから見ても無地に見えるような模様でさらに細かくなり結果的に高度な技術と技で各大名の袴が作られたよう。その後、庶民にも普及し野菜や玩具、動物、植物など洒落を楽しむ柄も生まれてきました。江戸小紋の

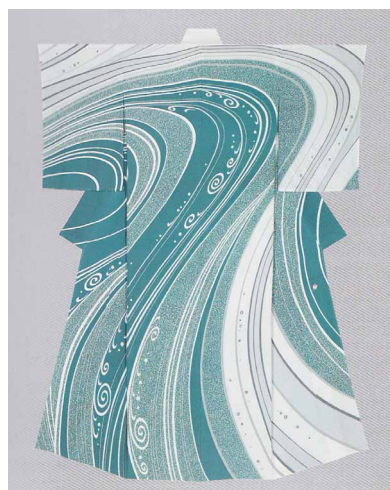
型紙は伊勢で作られ伊勢型紙として知られています。四ツ井健氏と藍田愛郎氏から来年の展覧会に向けて文章をいただきましたので掲載致します。

ご挨拶

四ツ井 健

一九六二年金沢で生まれ、高校卒業と同時に友禅染の世界に出合い天の差配がこの間ずっとこの仕事で生きてまいりました。約十年間の修業時代後オリジナルの創作作品を求め日本伝統工芸展に挑戦しました。これを機会に日本工芸会に所属したことで江戸小紋師の藍田正雄先生との出会いがありました。先生とはこれまで染めの仕事での悩みや仕事に対する姿勢や人生観等いろいろなることを勉強させていただきました。

そんな中、この度、愛弟子である藍田愛郎君とノイエス朝日にて二人展を開催させて頂くことになりました。愛郎君は江戸小紋を、私は友禅染をそれぞれ新しいこれからの時代を切り開く思いでこの展覧会を成功させたいと思っております。是非とも「染・彩々展」をご高覧頂ければと願っています。



ご挨拶

藍田愛郎

二十歳の成人式の日、母が作ってくれた武田菱柄の羽織と着物。江戸小紋との最初の出会いでした。

その時の感動と高揚は今でも強く記憶に残っています。それから二年後、母が働く工場を見学という形で訪れました。そこで親方の人柄に触れ、結果その日に門を叩くことになりました。十五年経ち、まだまだですが、四ツ井さんとはどんな彩りになるか今から楽しみです。

